

平成26年3月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成26年3月25日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	15時45分	
3 出席委員	委員長	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	橋本拓治	教育次長	渡辺和夫
統括審議監	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
人事財務課長	荻野拓志	次長(学校施設課長)	佐々江一男
学校環境調整担当課長	樽家博志	指導課長	堀井博司
保健体育課課長補佐	赤野政治	生涯学習課長	丸川康一
中央図書館長	宮本嘉彦	文化財課長	乗岡実
スポーツ振興課主査	長江都	スポーツ振興課主査	近江俊介
次長(こども企画総務課長)	奥野淳子		
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主任)	宗田朋子
5 議題及び結果			
報告第26号	専決処理の報告[平成25年度岡山市一般会計補正予算(第4号)案(教育委員会分)への同意について]		承認
報告第27号	専決処理の報告[平成25年度岡山市一般会計補正予算(第4号)案(岡山っ子育成局分)への同意について]		承認
報告第28号	専決処理の報告[平成25年度岡山市一般会計補正予算(第4号)案(スポーツ振興分)への同意について]		承認
第6号議案	全国学力・学習状況調査に係る結果の示し方について		原案可決
第7号議案	岡山市立図書館の在り方について		原案可決
第8号議案	岡山市立図書館条例施行規則の改正について		原案可決

6 教育長等の報告 [平成26年12月4日(土)～平成26年1月17日(金)]

2/12	岡山市愛の泉表彰式	生涯学習課
2/14	岡山っ子育成条例推進会議	教育企画総務課
2/15	埋蔵文化財講座遺跡が語る岡山の歴史第6回	文化財課
2/15	幼稚園の先生と遊ぼう	文化財課
2/19	P T A新聞づくりコンクール表彰式	生涯学習課
2/22	学校支援ボランティア「学生シンポジウム」	生涯学習課
2/23	岡山市子ども会育成連絡協議会 50周年記念事業 「山本シュウ講演会」	こども企画総務課
2/24	足守地区の小中一体型校舎完成見学会	就学課・学校施設課
2/24～3/8	史跡千足古墳の石障の公開	文化財課
3/1	防災教育フォーラム	こども企画総務課
3/2	親子環境学習フォーラム2014	生涯学習課

東條委員  
生涯学習課長

○ 学校支援ボランティア学生シンポジウムの内容と雰囲気を見せてほしい。  
○ 第1部では、学校支援ボランティアとして活動している大学生による発表があり、その後、学校園の教員から、ボランティア受け入れの効果について発表があった。第2部では、参加者がグループに分かれて情報交換を行った。

曾田委員  
生涯学習課長

○ 参加人数を教えてほしい。  
○ シンポジウムに参加したのは、大学生66人。大学の内訳は、岡山大学10名、ノートルダム清心女子大学20名、環太平洋大学7名、中国学園大学4名、岡山理科大学8名、就実大学11名、ビーマックス5名、その他1名であった。岡山大学の学生の登録人数が今年度かなり減っている。

曾田委員

○ 加入者数が減ってきていることについては、大学側のカリキュラム等色々な問題があると思うが、近くの市町村では交通費を支給するという動きもあると聞く。岡山市はどうか。

生涯学習課長

○ 平成26年度については、大学からボランティアをする学校までの距離が一定以上の場合には、1回500円を支援しようと考えている。

曾田委員  
教育長

○ 岡山は市域が広いので、遠いと負担があると思う。  
○ 今年度は、インターンシップを利用して学校に行っていることもあって、ボランティアは減っている。実質的には、学校現場にたくさんの学生が入っていることには変わらない。

委員長  
生涯学習課長

○ 登録ボランティアに参加を呼びかけたのか。  
○ 登録者全員に案内を送っているが、参加者は少ない。

委員長  
生涯学習課長

○ 将来的に登録してもらうために教育学部等に周知しているのか。  
○ 大学の掲示板に掲示してもらったり、担当の先生から周知してもらったりすることで、未登録者も何人か参加してくれた。

委員長  
子ども企画総務課長

○ 防災教育フォーラムについて教えてほしい。  
○ 防災キャンプでの事例発表や意見交換、防災士協会の防災士2名を迎えて講話を行った。一般の方や公民館職員、防災キャンプに参加した地域の方等、約70名が参加し、参加者からは、「防災士から具体的な話を聞くことができ、とても参考になった」「26年度も防災キャンプを行いたい」「公民館での様々な取組について、来年度に生かすことができるきっかけや内容で、とても良かった」というような意見があった。

曾田委員

○ 岡山っ子育成条例推進会議について。構成メンバーは条例に書かれている四者か。それとも不特定多数か。

教育企画総務課長

○ 条例に示されている四者で、学識経験者を含め、家庭から3名、学校園から5名、地域から6名、事業者から3名の計18名で構成している。



学校施設課	○ これは、契約が終わっているものだ。大幅に変われば、金額が変わることもあるが、今のところその予定はない。
委員長	○ 報告第26号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 報告第26号を承認する。
委員長	○ 日程第4, 報告第27号について報告願う。
子ども企画総務課長	○ 説明(報告第27号の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問, 意見はないか。
委員長	○ 報告第27号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 報告第27号を承認する。
委員長	○ 日程第4, 報告第28号について報告願う。
スポーツ振興課主査(長江)	○ 説明(報告第28号の資料に沿って説明)
全委員	○ 質問, 意見はないか。
曾田委員	○ 債務負担行為の見方は。
スポーツ振興課主査(近江)	○ 平成21年のところに記載があるのは、平成21年度に設定したもの。平成21年度分に関しては、平成22年度から平成26年度の5年間について設定したものだ。
東條委員	○ 生涯スポーツ振興事業費の百間川健康ふれあいマラソンが中止になったことによる減額について。大会の中止はいつ頃決まったのか。昨年度のうちからわかっていたのではないかと思うが、予算計上の必要があったのか。
スポーツ振興課主査(長江)	○ 当課に土手の工事に伴う大会の中止情報が入ったのは、平成25年の秋頃なので、当初予算はその前にすでに計上していた。
東條委員	○ 主催はどこか。
スポーツ振興課主査(長江)	○ 山陽新聞社と岡山市の共催であり、負担金を出している。
委員長	○ 報告第28号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 報告第28号を承認する。
委員長	○ 日程第5, 第6号議案を説明願う。
指導課長	○ 説明(第6号議案の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問, 意見はないか。
曾田委員	○ 公表シートIIの学力分布の状況票について、グラフの見方を教えてほしい。
指導課長	○ 横軸が正答数。例えば、12~13問できた子どもが何パーセントいるかが、棒グラフ・折れ線グラフになっている。岡山市は■の折れ線、全国が◆の折れ線。縦に割合を示している。
橋本教育次長	○ その正答数の子どもが全体の何パーセントいるかということを表している。
東條委員	○ 市として統一したフォーマットで情報を示すことが来年度変わる点だ。 学校別公表シートIについて。フォーマットは市教委が示すが、内容は各校が作り、市教委で集約することのだが、単に集めるだけか、それとも、中身を確認することまで含めての集約ということか。
指導課長	○ 当然、集めるだけでなく、内容を見る。その中で、いろいろな取組例などが出てくると思うので、それを分析するというところまで踏み込めたらと思っている。
東條委員	○ 基本は、学校が示したものを尊重するというところであると思うが、提出されたものに対してこうしたほうが良いとか、教育振興基本計画と照らし合わせてこうだというような解説や指導など、少し踏み込んで手を加えることが

指導課長	あり得るのか。
東條委員	○ そこまで踏み込んで指導するかどうかは議論・検討はしていない。当然、提出してもらっただけでなく、内容を見て、学校への指導・助言に生かしたい。
指導課	○ データの読み方について、サンプルやガイドラインなどを示すつもりはあるか。
曾田委員	○ そうしたものを作成するかどうかは決めていないが、当然、シートを作成してもらう前に、データの見方も含めて説明したい。
指導課長	○ 東條委員と同様に、指導課が教育委員会として関わる方が良いと思う。例えば、国では経年変化を見ようとしている。それを学校現場は知る方法があるのか。情報は自分たちで収集するのか、情報提供をしているのか。
教育長	○ 今年度は、悉皆の調査だったが、その前年は抽出調査だったので、データとしては比較が難しい。
審議監 (学校教育担当)	○ 国から比較データが出てくるのか。
曾田委員	○ 国が経年で比較できる調査を実施しているが、抽出調査なので、全ての学校で経年比較できるということではない。
審議監 (学校教育担当)	○ 今年度の調査と平成26年度調査については、同じ悉皆だから比べられるのではないか。
曾田委員	○ 経年比較をしようと思えば、同じ問題で実施しないと正確なものにはならないと言われている。抽出調査で実施しているところは、いくつか同じ問題を抜き出して行っている。去年と今年と違う問題だが、同じく悉皆調査なので比較すれば単純に経年比較できるかと言われればそうではない。
曾田委員	○ 国がやろうとしているのだから、国立教育研究所でまとめたデータを使っていけばよいが、そこに市教委も関わってほしい。
曾田委員	○ 例えば、授業のめあてと振り返りができているところは、成績がいいというデータがある。しかし、岡山県や市は、めあてと振り返りをしている率はとても高いのに学力はそうでもない。そうしたところを分析することが、次の第2弾の改善プランに生きることになる。教育委員会が関わる方向がよいのではないか。国が実施している様々な調査には、利用できるものがあるだろうし、もう一つ、データがうまくリンクできていない部分や、解析できていない部分について学校に任せるのは無理がある。学校へ示す共通のシートや一定の方向性とは別に、学力向上・生活状況の向上に関して、市教委が関わる部分を決めておいたほうがいい。
教育長	○ データの分析について意見が出たが、経年変化も含め、項目間の分析については、国の分析もあると思うが、岡山市としての分析をしないといけない。今までは十分ではなかったと思っているが、市教委だけでも十分にはできかねる。様々な機関のご協力をいただくことも必要だ。その中で、基礎的なものと応用的なものがどうリンクしているのかがわかれば、学校がどこに力を入れていけばいいのかわかってくる。今後の大きな課題だ。
東條委員	○ 去年の分析を見ていると、項目ごとに関する記述が多く、項目間の関係やまとまりについての分析は、岡山市だけでなく、全体的に足りていない。確かに、事務局だけでできることではないので、研究機関に呼びかけるなど、データ分析の専門家にも協力を求めていくことが必要だ。文部科学省からも全体的なデータ研究をするよう指摘があったということは、どこもデータをうまく使えてないのではないか。本市でも、統計学者を巻き込むようなことをしてもよいのではないか。
曾田委員	○ 家庭学習について、家庭学習が少ないから学力が低いというリンクはわかるとしても、家庭学習の方法や内容が悪いのか、分量が少ないのかそうした分析が必要。

<p>指導課長</p>	<p>公表の仕方を変えることが可能になり、原点に立ち戻って論議しているわけだから、家庭学習の時間が短いのはなぜかという、後のことまで考えないと、公表シートの改善プランに掲載したとしても、なかなか前に進まない。行政の関与やデータの分析について、専門分家の分析も含めて示したほうがよい。</p>
<p>曾田委員 指導課長 曾田委員</p>	<p>授業改善についても、岡山市の課題と対応のところで好事例を示しているが、同様に国も公表している。これらは、学校が自主的にダウンロードするのか。それとも、お知らせをして、参考にするよう提案しているのか。</p> <p>○ 例えば、こういうホームページにこういうものが掲載されているといったことは学校へお知らせしているし、説明会でも説明している。岡山市の取組例については、現在もホームページに掲載し、紹介もしている。</p> <p>○ 学校現場のどういう人を対象にお知らせするのか。</p> <p>○ 年1回、各教科のごとの説明会があり、そこで紹介をしている。</p> <p>○ 例えば、中教研の教科と関連付けてするほうが効果的ではないかと思う。どういう改善と方策があるのか、現場がもっとたくさんのことをしようと思えば、教科ごとがよい。教科ごとというのは、学校代表が集まるということか。</p>
<p>指導課 曾田委員 委員長</p>	<p>○ そうだ。</p> <p>○ うまくいけばそれでよい。</p> <p>○ システムティックにデータを解析してやっていくことも重要だが、もっと基本的なところで、まずは、自分の学校のデータを見直すところから始めてもよいと思う。1年間でどのような改善ができたのかを踏まえながら、改善プランを立てていくことが、今回、私たちが議論した中で重要なことではないかと思う。せっかく調査をしても、今までうまく生かされていなかったのではないかという意見があるので、今回は、改善プランを作る中でしっかりとデータを見つめ直して生かして行ってほしい。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 改善プランは今までも作成していたが、内容にどういった視点を盛り込むかが大切。市としての方向性や柱に沿って考えていくという視点が足りなかった。ただ任せてしまっていたことの反省点はそこだ。岡山市としてどうなのかということを含めて、各学校を見ていくことが必要。</p> <p>これまで、個票だけを子どもたちに返していた。個票では、全国の中での自分の位置しかわからなかった。新たに作成する公表シートⅡで、全国に加えて、市と学校についてのデータを掲載しているので、個票と見比べることで、自分はどうか、何を改善しないといけないのかがわかるようにしている。こうした指導課からの提案についてどう思うか。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 教育長に言われて気がついた。それは保護者にはなかなか伝わらないので、保護者にも見方の指導が必要だ。これは個別に返却するのか。</p>
<p>指導課</p> <p>東條委員 指導課長 東條委員</p>	<p>○ 各学校から返却するが、必ず説明を加えて返却しないと、ただ単に結果を返すだけになる。結果の見方について、子どもたちに説明し、保護者にもわかるようなものを示さないといけない。</p> <p>○ 個人の位置の読み取り方については、事務局で準備して指導するのか。</p> <p>○ 簡単な見方については、指導課で整理したものを学校へ示す。</p> <p>○ 公表シート自体、表記の工夫や、重点的に実施するところは太字にするなど、見やすく、伝わりやすい書き方にする必要があると思うが、それは考えていくのか。</p>
<p>指導課長 東條委員</p>	<p>○ これから改良をしていきたいと思っている。</p> <p>○ 先生方はプロなのでわかるが、私たちや保護者等は、見た目でわからない。伝わりやすさを念頭に置いた改善をしてほしい。字が小さいと、見る意欲を</p>

<p>曾田委員</p>	<p>失う。これでは表している内容がよくわからない。せっかく作成してもよいことにはならない。時間はあるので、検討してほしい。</p> <p>○ 今回のテストの結果の示し方について、学力のみに焦点を当てないようにしないといけないと思うが、ねらいにある「学習等の状況」という記載の部分は、「学習や生活習慣」にしてはどうか。公表シートI「学習や生活に関する改善プラン」についても、それぞれの項目ごとに、学力と生活習慣の両方を併記していることをわかるように線を引いて区別すればわかりやすい。学力の部分ばかりに視点がいつているので、それを支える生活習慣の部分をクローズアップすることも必要。</p>
<p>指導課 委員長</p>	<p>○ 工夫したい。</p> <p>○ 学力に関しては、学校での授業改善が中心になる。学習状況調査から見える生活習慣や学校以外での学習環境や規範意識は、家庭でしっかりやっていただきたいと思うが、学区の皆さんの協力なしではできない。</p> <p>教育振興基本計画にも、「地域協働の人づくり」というキャッチフレーズがあり、保護者や学区の方へお願いすることが出てくるなら、学区の子どもたちの状況や学校の課題は、地域や学区の方と共有できるような表し方をしていただきたい。学校運営協議会や評議会、学校だよりでお知らせしていくということだが、ホームページにもそのままの形で掲載するということか。</p>
<p>指導課 委員長</p>	<p>○ 集約して、市教委のホームページに掲載する。</p> <p>○ 学区の方へは、アクセスできるかたちで紹介し、共有することで学区の皆で改善策を考える一つの資料として活用できないかと思うがどうか。</p>
<p>指導課</p>	<p>○ 方法は様々だが、各学区の状況等の違いもあり、一律にするのは難しい。学校・保護者・地域との連携の中で、学力だけではなく、学習・生活など子どもたちに関わることを一緒に取り組んでいくための方向付けの一つの資料として様々な場面で使えるものと考えている。そうした使い方ができたらよい。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 今年度は、各校独自に改善計画を作成したと思うが、どのように示されているか。それは、まとめているか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 今年度も様式は違うが、各学校で作成したものを指導課へ提出してもらい、教育課程の協議会などで、お互いに学校間の交流、特に中学校区で改善プランを出し合い、それをもとに話し合いをするという研修の資料として使っている。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 学区の方に今年度はどのくらい周知したのか。こういう機会を示すということ为例示されたが、単に例示だと、最初に1回やって、皆に浸透しないまま終わることになる。強めに依頼し、常々、示してもらおうと、学区の方にもわかりやすいだろう。</p> <p>おそらく、回覧板等で周知していると思うが、このような話は何度も周知しないと、入っていかない。示し方に関しては、例示ではなく、複数回実施し、なおかつ浸透させるよう努力してほしいという指導が必要だ。特に、校内や関わっている学校の先生、子どもや保護者なら理解しやすいが、学区の方はピンポイントで何回も周知しないとわからないと思うので、一緒に取り組んでいこうとするのであれば、知ってもらおう努力をもっとしていくことが必要だ。</p>
<p>曾田委員</p>	<p>○ 保護者への問いかけや学校の姿勢、地域の方への依頼など、改善方法はいろいろあるが、最後は、子どもたち自身がどう考えるかだ。今後、高等学校へ進学し、一斉テストを受けると、自分と向き合わなければいけない。隣の子どもと比較していてもどうにもならない。自分が今後やるべきことに向き合えるようなシートがいるのではないか。</p>

<p>指導課長 曾田委員</p>	<p>公表シートⅢの質問紙調査のレーダーチャートについてだが、自尊感情や家庭学習に関する質問等は、岡山市が経年的に調べようとしている項目か。</p> <p>○ そうだ。</p> <p>○ メモリの取り方が重なっているので、メモリを工夫して、子どもが判断したり、やろうという気になったりするようにわかりやすくしてほしい。</p>
<p>委員長 奥津委員</p>	<p>全国的にも岡山市でも予習・復習はしない傾向にあるが、他もしていないからいいというのではなく、自分たちはどうするかが大切。いくら先生が授業改善しても、保護者が言っても、子どもたちがその気にならないとできない部分が出てくるので、子ども向けの示し方に工夫がいる。</p> <p>○ 最近、先に予習して学校で復習をする反転授業が話題になっており、教育も変わってきている実感している。</p> <p>○ スケジュールについてだが、公表シートの作成で、時間がかかると思うのがシートⅠだ。国から返却される個票と、シートⅠ・Ⅱ・Ⅲを一緒に出すことができるのか。</p>
<p>指導課長 奥津委員</p>	<p>○ 今年度の結果の返却は8月の終わりだった。そこから学校が分析し、全体を見ていく。すると、できるのが10月。全部示せるようになるまでに1か月少しかかる。作業が能率よく済むようにしたいとは思いますが、学校が作成するので、難しい面はある。</p> <p>○ 国からもっと早く結果が返却されればよいということか。</p> <p>○ 前回の教育委員会で、データの活用について本気で考えるなら、今の返却時期では遅く、時期を早めてもらえるよう国に対して要望をしていこうという話が委員から出たので、事務局で要望案を作成した。教育委員会として要望したいと思っているので、文面については委員長と話をさせていただきたい。</p>
<p>指導課長 教育長 東條委員</p>	<p>○ 事務局ではなく、教育委員会として、委員長名で要望したほうがよい。</p> <p>○ 夏休み中は教員研修が多くあり、議論できるのは、実質的には8月の最初と最後ぐらいだ。そう考えると、1学期の終わりには返却されないと、2学期から活用できない。10月だと、年の半分は終わっているし、2学期は行事も多くあるので、あまり実効性のないものになる。</p> <p>これだけ大規模なことをやっているのも、もっと使い勝手がいいようにしてもらいたい。1学期中の返却を要望したほうがよい。</p>
<p>奥津委員 指導課長</p>	<p>○ 8月末に返却があったとして、市の公表シートができる10月まで個票を返却しなくても大丈夫なのか。市からのものがないと比較できないのではないか。</p> <p>○ 全国調査なので、結果の返却時期は保護者にもわかる。時期を見ながらだが、とりあえず、国からの個票を返却しておいて、2段階目に、岡山市の公表シートを返却するという方法も考えておかなければいけないと思っている。</p>
<p>教育長 橋本教育次長</p>	<p>○ その時に、個票と公表シートを比べていくことが大切なのではないか。時期をずらして返却しても、きちんと比較できるような手立てが必要なのではないか。</p> <p>○ 公表シートⅡ・Ⅲは作成に時間はかからないと思う。シートⅡと個票を比べることで、今まで見えなかったものが見える。本当に大事なものは、公表シートⅠ。全体として学習面・生活面の課題や改善につなげるので、学校も一定の時間をかけて作る。場合によっては、公表シートⅠを後日、配布するという方法はあると思う。学校の改善に結びつけるためには、早いほうがいいのは当然だが、国が結果の返却をどれだけ早くしてくれるかにかかっている。</p>



委員長	○ 公表シートⅡ・Ⅲは個票と一緒に返却しないといけない。改善プランは後日配布すれば、思い出させるという意味では、逆に効果的かもしれない。
橋本教育次長	○ 2学期のスタートに合わせるのが理想だ。
委員長	○ 要望書は通る可能性が高いのか。
教育長	○ わからないが、意思表示はしておかなければならない。
東條委員	○ 複数の自治体で出すと聞いている。教育委員の会議で、他の自治体の人と話をした時に、そうした話をしていたので、今回も色々なところから出てくるのではないか。
曾田委員	○ 県も要望書を出すという動きはあるのか。
教育長	○ それは聞いていない。 結果の示し方のねらいと配慮することから、このような事務局案になっている。この様式について、正答率だけがクローズアップされないように示していることと、子どもたち・保護者・学区の方に結果を示していくということについて、最終的にはそれでいいか。細かい様式の改善については、時間をかけながら行う。
曾田委員	○ 公表シートを作ったことで、学校現場も使いやすく、問題点が浮き彫りになると思っている。学校現場も、地域も子どもも意識が変わってきた。 もう一つ、学力向上と教育環境が関係するのかもしれないのかという分析も必要。ねらいの中に、教育委員会が施策に反映させるとあるので、教育環境の調査等とリンクさせて、何を反映させるのか、検討を行えばよいのではないか。
指導課長	○ 文科省では全国的な様々な調査等を行っていると思うので、参考にしたい。指導主事の人数は別として、学校へどう関わっていくのか、教育委員会としてどのような支援ができるかなどの参考にしたい。
曾田委員	○ 今回は指導課が中心になって考えているが、総合的に考えないといけないところまできているのではないかと思う。
委員長	○ シートの書き方等、細部については検討することとし、大枠として第6号議案を可決してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 第6号議案を原案どおり可決する。
委員長	○ 日程第5, 第7号議案を説明願う。
生涯学習課長	○ 説明(第7号議案の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問, 意見はないか。
東條委員	○ 文書の行頭の禁則処理については修正してほしい。
生涯学習課長	○ 点検して修正する。
委員長	○ 開館日は改善の余地があるのか。
図書館	○ 第8号議案のところで説明する。
曾田委員	○ 感想だが、開館日についてまで及ぶ在り方が作成されたことがすごい。若い世代、中学生の意見も聞いていることは、未だかつてないことなので、最終案を説明する際には、成果として積極的にアピールしたほうがいい。何度も何度も修正を重ねて大変だったと思う。お疲れ様でした。
委員長	○ 第7号議案を可決してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 第7号議案を原案どおり可決する。
委員長	○ 日程第5, 第8号議案を説明願う。
中央図書館長	○ 説明(第8号議案の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問, 意見はないか。
教育長	○ 「ばく書期」とはどういう字を書くのか。

中央図書館長 東條委員 中央図書館長 委員長 全委員 委員長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「曝書期」。本の整理日だ。</li> <li>○ 虫干しの日ということか。</li> <li>○ そうだ、以前は、実際に虫干しをしていたし、今でも古文書はしている。</li> <li>○ 第8号議案を可決してよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 第8号議案を原案どおり可決する。</li> <li>○ 以上で、公開議案の審議は全て終了する。</li> </ul>
--	---

傍聴の状況		
報 一	道 般	5名 1名

平成26年3月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成26年3月25日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	16時45分	
	閉 会	17時10分	
3 出席委員	委 員 長	塩 田 澄 子	
	委 員	曾 田 佳 代 子	
	委 員	東 條 光 彦	
	委 員	奥 津 晋	
	委員（教育長）	山 脇 健	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	橋 本 拓 治	教育次長	渡 辺 和 夫
統括審議監	佐々木 辰 昭	審議監（学校教育担当）	天 野 和 弘
審議監（生涯学習担当）	直 本 正 明	学事課長	三 宅 泰 司
5 議題及び結果			
第9号議案 岡山市立学校の県費負担教職員の人事について	原案可決		